

YAMAHA



EOS

YS200
DIGITAL SYNTHESIZER

取扱説明書〈シーケンサー基礎編〉

シーケンサー 基礎編

取扱説明書の読み方

取扱説明書シーケンサーは基礎編と応用編に分かれています。お使いになる方の経験に合わせて上手にお使いください。

各ステップの終わりには、そのステップのまとめを載せてあります。まとめを読めばシーケンサーの概要を理解できます。

表 題		主 な 内 容	はじめてシーケンサーをお使いになる方	ある程度使いこなしている方
シーケンサー基礎編	STEP1 シーケンサーを使おう	シーケンサーとはどんなものか、EOSのシーケンサーでどんなことができるのかについて説明してあります。	必ずお読みください。	特にお読みになる必要はありません。
	STEP2 演奏をそのまま録音する（ノーマル録音）	EOSの鍵盤を弾いて録音する方法と再生の方法について説明してあります。	必ずお読みください。	必要に応じてお読みください。
	STEP3 音符をひとつずつ録音する（ステップ録音）	音の長さ、高さをひとつずつ指定して録音する方法と再生の方法について説明してあります。	ステップ録音をする方は必ずお読みください。	必要に応じてお読みください。
シーケンサー応用編	STEP4 ソングの登録	録音したソングに名前やテンポ、音色、発音数などの設定を登録する方法について説明してあります。	録音した方は必ずお読みください。	必要に応じてお読みください。
	STEP5 マルチトラック録音に挑戦	複数のトラックを使った録音のしかたについて説明してあります。トラックとはどういうものか、録音する音色の選び方について解説してあります。	ノーマル録音または、ステップ録音をマスターしてからお読みください。	必要に応じてお読みください。
	STEP6 録音の設定とカード	メモリーの概略と録音条件の設定、カードの使い方について説明してあります。	必要に応じてお読みください。	必要に応じてお読みください。
	STEP7 データの編集	録音後の演奏データ修正と編集のしかたについて説明してあります。	データの編集をするときにお読みください。	必要に応じてお読みください。
	STEP8 シーケンサーとMIDI	他のMIDI楽器と組み合わせた使い方について説明してあります。	EOSだけで使うときには、お読みになる必要はありません。	必要に応じてお読みください。
	STEP9 資料編	トラブルの対処法やMIDIについての資料などをまとめてあります。	必要に応じてご覧ください。	必要に応じてお読みください。

目次

STEP1	シーケンサーを使おう	STEP 1
STEP2	演奏をそのまま録音する(ノーマル録音)	STEP 2
STEP3	音符をひとつずつ録音する(ステップ録音)	STEP 3
STEP4	ソングの登録	STEP 4
付 録		付 録

シーケンサー基礎編

項目別目次

取扱説明書の読み方	2
目次	3
項目別目次	4
STEP1 シーケンサーを使おう	7
シーケンサーってなんだ？	8
テープレコーダーとの違い	8
シーケンサーなら	9
シーケンサーの特長	9
デモ演奏を聴いてみよう	10
シーケンサーの入口	11
入口はSEQ/PLAY	11
出口はEXIT	11
スイッチの使い方	12
録音のしかた	13
ノーマル録音	13
ステップ録音	13
どのくらい録音できるの	13
この章のまとめ	14
STEP2 演奏をそのまま録音する(ノーマル録音)	15
録音前の準備(ノーマル録音)	16
接続	16
シーケンサー機能への切り換え	16
録音する曲の選択	16
録音条件の確認	17
録音待機	17
拍子を決める(Beat)	18
テンポを決める(Tempo)	18
録音開始小節の確認(Measure)	18
音色とトラックを選ぶ	19
表示された音色	19
音色の割り振り(パートタイプの選択)	19
録音トラックの選択	20
音色の選び方	21
録音の開始	23
録音のしかた	23
録音の停止	23
曲の途中から録音するには(継続録音)	25
再生のしかた	26
再生の開始	26
トラックの確認	26
再生のテンポ	26
音色をかえる	27

再生の停止	27
録音の途中でまちがえたら(消去)	28
もう一度録音し直す	28
録音を消す(ERASE).....	29
指定したトラックの一部だけを消す	31
1曲まるごと消す(ソングクリア)	32
この章のまとめ	33
シーケンサーでどんな楽しみ方があるか	34
STEP3 音符をひとつずつ録音する(ステップ録音)	35
録音前の準備(ステップ録音)	36
接続のしかた	36
シーケンサー機能への切り換え	36
録音する曲の選択	36
録音方法の指定(RECORD MODE)	37
ステップ録音の指定	37
録音条件の確認	38
録音待機	38
拍子を決める(Beat).....	38
録音開始小節の確認(Measure).....	38
音色とトラックを選ぶ	39
表示された音色	39
音色の割り振り(パートタイプの選択)	39
録音トラックの選択	40
音色の選び方	41
録音の開始	43
録音のしかた	43
録音の終了	44
音符の録音方法	45
録音の基本操作	45
音符(音の長さ)を決める	45
音の高さを決める(鍵盤を弾く)	46
音の強さを決める	46
タイミングを決める	47
音の長さの選び方	48
同じ長さの音符のとき	48
4分音符から32分音符(♪ ♪ ♫ ♬).....	48
2分音符と全音符(♩。)... ..	48
符点音符(♪ ♪).....	49
3連符(♫).....	50
タイ(♪ ♪).....	51
テヌートとスタッカート(音符を伸ばす、短く切る).....	51
和音の録音	52

小節の指定	52
休符の録音	53
休符の指定(rest)	53
録音位置を移動する(◀▶キー)	53
カーソルキーの使い方	54
音符の長さを変える	54
録音位置の移動	54
録音の途中でまちがえたら	55
訂正のしかた	55
鍵盤を弾く前に気づいたら	56
ステップ録音の実際	57
録音してみましょう	57
再生のしかた	61
再生の開始	61
トラックの確認	61
再生のテンポ	61
音色をかえる	62
再生の停止	62
この章のまとめ	63
ノーマルカステップか?	64
STEP4 ソングの登録	65
ソングの登録とは	66
登録できる内容	66
ソングネームとテンポ	67
曲に名前をつけよう(Name)	67
テンポを覚えさせよう(Tempo)	68
音色の登録	69
録音した音色で登録する	69
録音後に音色を変える	69
曲の途中で音色を切り換える	71
音色の切り換え	71
「音色の切り換え」の消し方	73
登録の前に	73
エフェクトをかけよう	74
エフェクトの設定方法	74
ソングの登録(STORE)	75
登録のしかた	75
この章のまとめ	77
付録	79
故障かなと思ったら	80
索引(50音順)	81
索引(アルファベット順)	86
サービスについて	88

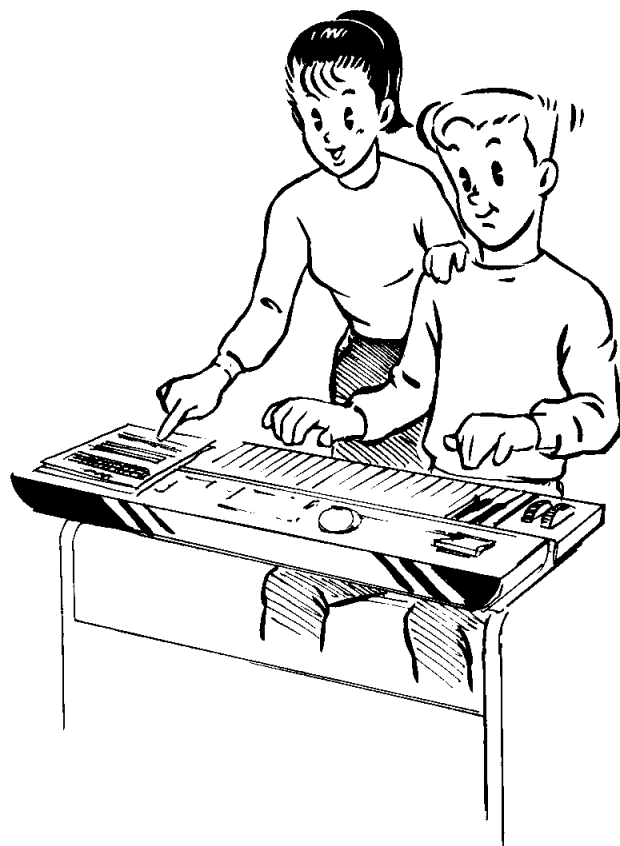
STEP 1

シーケンサーを使おう

シンセサイザー編で、EOSのシンセサイザーとしての基本的な使い方はマスターできたと思います。本書ではEOSのもうひとつの大きな機能シーケンサーについて説明します。この章ではシーケンサーとはどんなものかについて説明します。

シーケンサーは演奏を記憶して、自動演奏を行なう機能です。シーケンサーを使えば、一人でオーケストラを自由にあやつることができます。

シーケンサーの使い方をマスターしてEOSの可能性をさらに広げてください。



シーケンサーってなんだ？

シーケンサーとはひとことというと、シンセサイザーの演奏を記録（録音）して、いつでも好きなときに演奏（再生）する機能です。

なんだそれならEOSを演奏して、カセットテープに録音しても同じじゃないか！とおっしゃる方も多いでしょう。確かに演奏を録音して再生するという意味では、シーケンサーもテープレコーダーも同じです。しかし、実は大きなちがいがあるのです。

テープレコーダーと比較しながら、シーケンサーとはどういうものを説明します。

すぐに録音してみたい気持ちはわかりますが、ちょっと辛抱してください。

テープレコーダーとのちがい

テープレコーダー（おそらく皆さんが使われているのは、カセットテープレコーダー）はとても簡単な操作で、録音や再生ができますね。自分の声やFM放送を録音したり、あるいはお気に入りのレコードを録音して、好きなときに好きな場所で聴いたり…。一度操作を覚えてしまえば、簡単な操作で録音や再生ができます。でもちょっと積極的な、それも自分の演奏を録音したり、テープに合わせて演奏したりと、きわめて音楽制作的な使い方をすると不便ことがあります。

具体的に例をあげて説明してみましょう。最初にお断りしておきますが、決してカセットテープレコーダーを否定するつもりはありません。レコードなどの曲を録音して聴くには、これ以上安くて便利なものは他にないのでから。

・テンポを変えたら…

まずは、カセットテープに録音した曲に合わせてEOSを弾くとき。まだうまく弾けないのでテンポを遅くしたい。残念ながら、テープの再生スピードを変えることはできません。

マルチトラックテープレコーダー（ヤマハ\CMX100）のように、音楽制作用のカセットの中には再生スピードを変えられる機種もあります。でも、再生スピード（テンポ）を変えると音程が変わってしまいます。

・すぐに聴きたい曲を選ぶには…

再生（演奏）させたい曲を素早く選曲。カセットの高級機には選曲機能もついています。テープの巻き戻しや早送りに時間がかかります。

曲の途中から録音や再生する。テープレコーダーでは、とてもむずかしい操作です。曲の途中から録音・再生するなんて、そんな必要があるの？

曲のある部分だけを繰り返し演奏したり、間違えた部分だけを録音する場合です。また1曲の中でたった1音だけ弾きまちがえてしまったとき。もう一度、最初から録音し直さなければなりません。

・別の音色で聴きたい…

今度はなんとかまちがえないで録音できた。でも聴き返してみると、このメロディーはいま録音したオルガンの音よりはフルートのほうが合うみたい。音色をフルートに切り換えて、もう一度始めから、それも間違えないように演奏しなければなりません。

・「サー」という音がするけど…

最後にもう1点。カセットテープではたとえどんな高級機種でも、録音するときに「サー」という雑音（ノイズ）が入ってしまいます。ノイズリダクションといってこの雑音を少なくする機能もありますが、完全に雑音を消すことはできません。

また、何度も繰り返し聴いているとテープがだんだん悪くなり、音がこもったりしてしまいます。（劣化とよびます。）

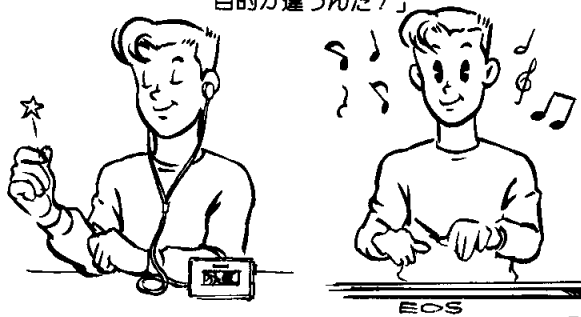
シーケンサーなら

もうこれくらいにしておきましょう。

「シーケンサーはどうなんだ / さんざんカセットの悪口を並べておいて、お前はちゃんとできるのだろうな。もしできなかつたら、たたじゃあかないからな / 」おっと、過激ですね。お怒りはごもっとも。でもはじめに申し上げたはずです。決してテープを否定しているわけではありません。

そもそも、カセットテープは音楽や声などを気軽に録音再生するための装置です。一方シーケンサーはシンセサイザーの演奏（演奏データ）を効率よく録音再生するための専用装置です。演奏（演奏データ）の録音再生が得意なのは当たり前なのです。反対に、シーケンサーは逆立ちしたって、FM放送を録音することはできないのですから。

「テープとシーケンサーは似てるけど、
目的が違うんだ！」



シーケンサーの特長

それでは、シーケンサーの特長を説明しましょう。

テープレコーダーが演奏をオーディオ信号（耳で聴くことのできる音そのもの）として記録するのに対して、シーケンサーはシンセサイザーの演奏をデジタルデータとして記録します。

デジタルデータの記録とは、どの音程の音を、どの位の強さで、どの位の長さで、またどんな音色で弾いたのかを1音1音順番に記録していくことです。再生するときには、記録されたデータのとうりにシンセサイザーの音色を選び、記録されている音程、強さ、長さでシンセサイザーを発音させるのです。

また、シーケンサーは豊富な編集機能を持っています。ですから演奏データを記録したあとからでも、別の音色にしたり、ある一つの音の高さや長さなどを変更することが可能です。

シーケンスとは「順番に」という意味です。演奏データを順番に記録し、その順番通りに再現することから、「シーケンサー」と呼ばれています。

デジタルデータですから、次のようなことが簡単にできます。

- ・テンポを変えても、音程は変わらない。そのため、ゆっくり録音して速く再生することもできる。
- ・必要な曲（演奏データ）をすぐに呼び出せる。
- ・曲の途中からの再生や、必要な部分だけを録音し直すことができる。
- ・不要なデータはすぐに消すことができる。
- ・録音後に、1音符ごとにデータの変更（音程、強さ、長さ、音色など）ができる。
- ・演奏データの複写、削除、挿入などの編集がワープ口感覚でできる。
- ・音符を1音ずつ指定しながら、録音できる。鍵盤の演奏が不得意の人でも、簡単に作曲や録音ができる。
- ・デジタルデータを記録するため雑音はない。
- ・何度再生しても、音は劣化しない。
- ・曲に名前をつけて管理、記録しておくことができる。

カセットテープでは、不可能だったことが簡単にできてしまいます。

またEOSのシーケンサーは、録音再生できるトラックを8つ持っています。

トラックについては後で詳しく説明しますが、簡単にいうと8つのパートを別々に録音して、同時に演奏できるということです。例えば最初にベースの音でベースパートを録音し、次にピアノで伴奏をつけ、最後にフルートでメロディーを弾くといった具合です。

シーケンサーが8台あると考えるとよいでしょう。

デモ演奏を聴いてみよう

シーケンサーについて何となく概略は理解できましたか？ どうも文字だけの説明では分かりにくいという方のために、デモンストレーション演奏を用意しました。このデモンストレーション演奏を聴けば、シーケンサーとはどのようなものか、EOS 1 台でどんなことができるのかを実際の音で確認できます。デモンストレーション演奏を聴くには、「シンセサイザー基礎編37ページ」をご覧ください。

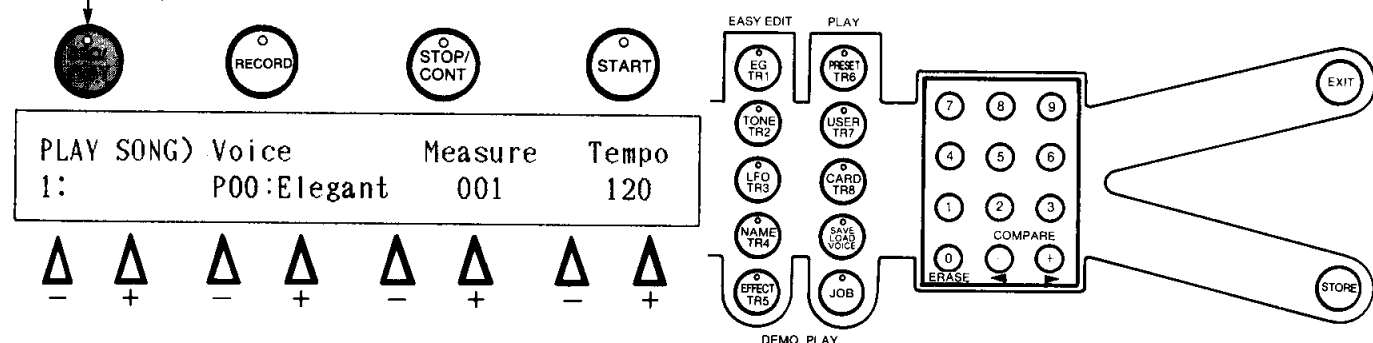
シーケンサーの入口

EOSは電源を入れたときには、いつもシンセサイザーで演奏する状態になっています。
演奏の録音や再生をするには、シーケンサー機能呼び出します。

入口はSEQ/PLAY

シーケンサー機能の呼び出しは、ディスプレイの上のシーケンサー/プレイ (SEQ/PLAY) スイッチを押します。EOSはシーケンサーに変身します。

シーケンサーの入口

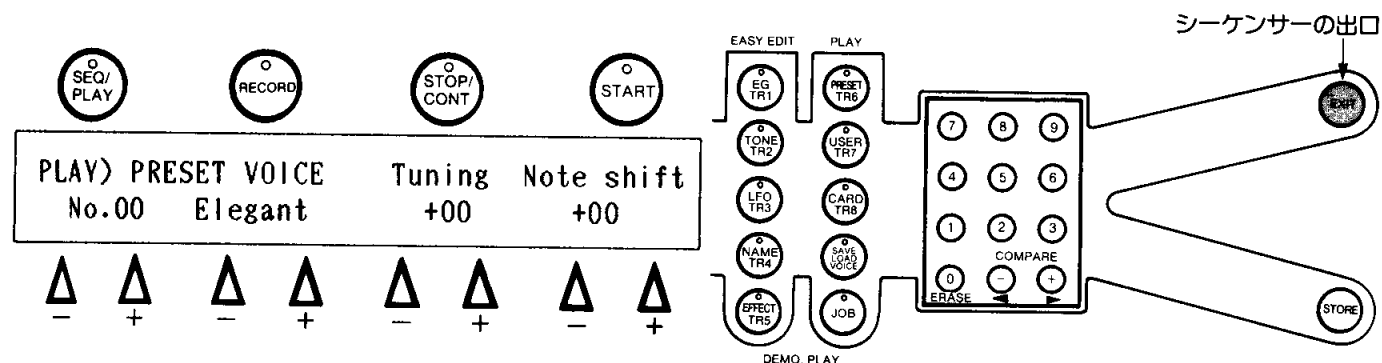


注意

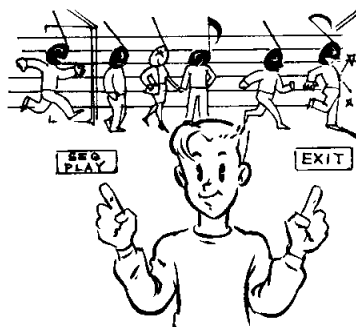
デモンストレーションはシーケンサーの機能ですが、わかり易くするために、特別の操作方法にしております。

出口はEXIT

シーケンサー機能から、シンセサイザーで演奏する状態に戻るときには、パネル右上のエグジット (EXIT) スイッチを押します。



「シーケンサーの入口」

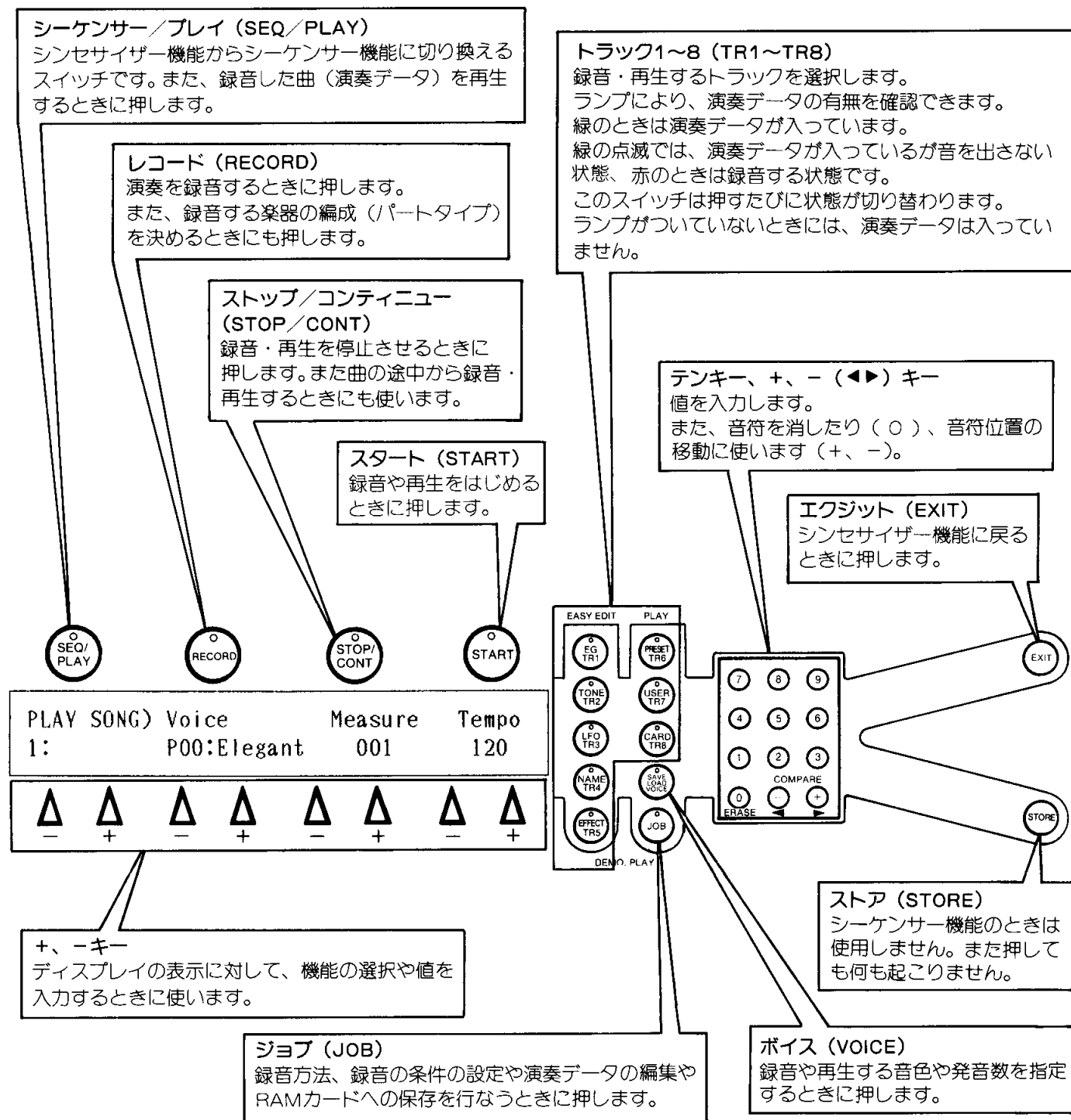


「シーケンサーの出口、EXITを押せばシンセサイザーに戻れます。」

スイッチの使い方

シーケンサー機能では、シンセサイザーの演奏やエディットのとときとスイッチの機能や使い方がちがいます。

シーケンサー機能のときの、スイッチの役割について簡単に説明します。



注意

ディスプレイ右横の10個のスイッチは、シンセサイザーとシーケンサーとでは、同じスイッチでも働きが変わります。シーケンサーを使うときは、スイッチの下側の文字を見てください。

シーケンサー用 — EG TR1 — シンセサイザー用

録音のしかた

録音の方法には次の2種類があります。

(1) ノーマル録音

あなたがEOSの鍵盤で弾いた通りに録音します。

鍵盤演奏に自信のある方にお薦めです。自信のない方でも大丈夫。テンポを遅くしてゆっくり演奏すればよいのです。録音後に自動演奏（再生）させるときに、テンポを速くすればよいのです。再生するテンポを変えても音程が変わらないのが、シーケンサーの特長でしたね。

→「演奏をそのまま録音する（ノーマル録音）（15ページ）」

(2) ステップ録音

音符や休符をひとつずつ指定していく録音方法です。

例えば、1小節目の1拍目は4分音符の「ド」、2拍目は8分音符の「ミ」といった具合です。ステップ録音は、鍵盤演奏が苦手の人に向いています。

またとても速いフレーズなど、ノーマル録音では録音しにくい譜例も簡単に録音できます。

→「音符をひとつずつ録音する（ステップ録音）」（35ページ）」

* ノーマル録音、ステップ録音のどちらか自分にあつた方法で録音してください。2つの録音方法を併用することもできます。例えば、簡単な部分は自分で演奏・録音して（ノーマル録音）、演奏がむずかしい部分だけを、1音符ずつ指定して録音する（ステップ録音）こともできます。

* またノーマル録音の応用として、「パンチ録音」もあります。パンチ録音は既に録音してある曲の一部分を鍵盤を弾いた通りに録音し直す方法です。

→「パンチ録音」（応用編45ページ）」

どのくらい録音できるの

最大で別々の演奏を8曲まで録音できます。（8ソング）

それぞれの曲には8つのトラックがあり、8つまでのパートの演奏を録音することができます。

ひとつのトラックには、最大で同時に8和音まで録音できます。

EOS本体の中におよそ10000音符まで記憶できます。

（ただし、全部のトラック、曲の演奏データの合計が10000音を越えることはできません。）

演奏データは、電源を切っても覚えています。

また、本体内の他に別売のRAM（ラム）カードにも演奏データを記憶できます。

1枚のRAMカードには、本体内と同じく、約10000音の演奏データを記憶できます。RAMカードを増やせば、無限に演奏データを記憶することができます。

注意

およそ10000音とは、もつとも演奏データを多く記憶できるときの音符数です。

音の強さ（ベロシティ）やピッチベンド、モジュレーションホイールなどの情報も合わせて記録した場合には、記憶できる音符数は減少します。

この章のまとめ

[シーケンサーとは]

- ・シーケンサーは、シンセサイザーの演奏をデジタルデータとして録音し、再生（自動演奏）する機能です。（8ページ）
 - ・シーケンサーには次のような特長があります。
 - ・鍵盤での演奏を録音できる。
 - ・音符を1音ずつ指定しながら録音できるので、鍵盤の演奏が不得意の人でも手軽に作曲や演奏の録音ができる。
 - ・録音後に音色を変えたり、演奏データの編集や修正が簡単にできる。
 - ・テンポを変えても音程が変わらない。
 - ・選曲や曲の途中から録音再生が瞬時にできる。



[EOSのシーケンサーは]

- ・EOSのシーケンサーは8トラック。8つのパート演奏を別々に録音して同時に再生できます。（13ページ）
 - ・演奏データは最大8曲、約10000音まで録音できます。（13ページ）
 - ・シーケンサー機能は、SEQ/PLAYスイッチで呼び出し、EXITスイッチでシンセサイザー機能にもどります。（11ページ）
 - ・録音には、鍵盤での演奏をそのまま記録する「ノーマル録音」と1音符ずつ音の長さや高さを指定していく「ステップ録音」があります。
- また、既に録音した曲の一部分を録音し直す「パンチ録音」もあります。（11ページ）

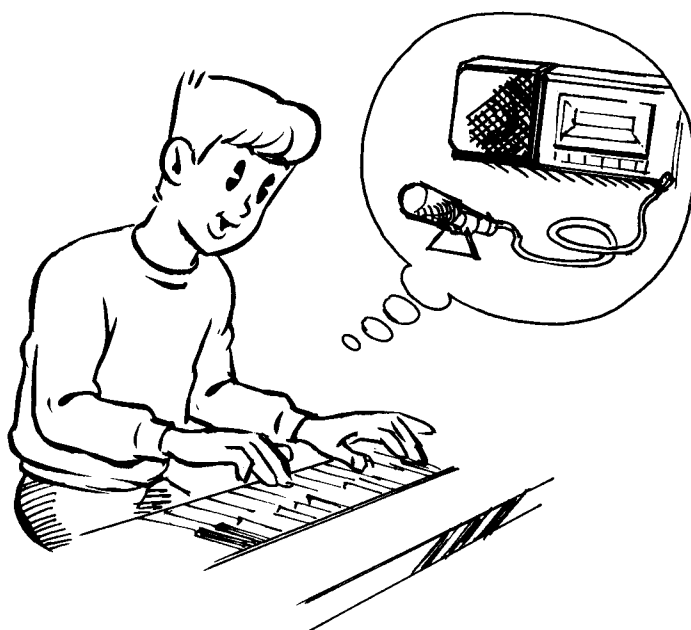


STEP2

演奏をそのまま録音する (ノーマル録音)

この章では鍵盤で弾いた演奏をそのまま録音する「ノーマル録音」の方法と再生のしかたについて説明します。

「ノーマル録音」では、演奏をテープに録音する感覚で簡単に録音できます。



録音前の準備(ノーマル録音)

鍵盤で弾いた演奏をそのまま録音する方法を「ノーマル録音」といいます。

ここでは、手始めにピアノの音色で演奏して、録音してみましょう。

複数の音色を使った録音(マルチトラック録音)については応用編で説明します。

いきなり演奏しても録音できません。テープに録音するときにもテープを巻戻したり録音レベルを決めるように、シーケンサーの録音でも録音前の準備が必要です。

接続

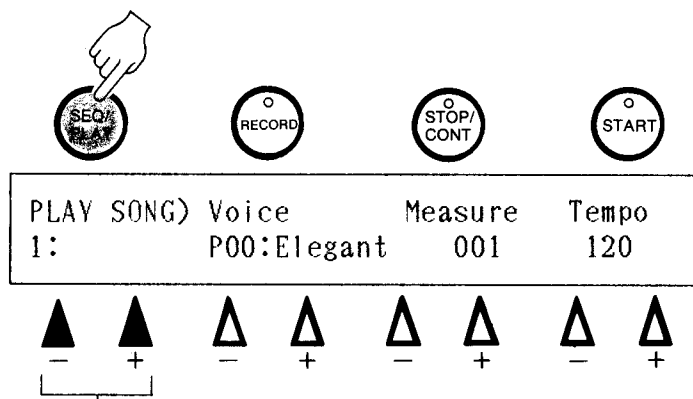
シーケンサーの為の接続方法は特にありません。アンプやスピーカーを接続してシンセサイザーで音が出るような接続をしてください。
(シンセサイザー基礎編14ページ)

シーケンサー機能への切り換え

ディスプレイの上の[SEQ/PLAY]スイッチを押します。

この操作で、シーケンサー機能になります。

SEQ/PLAYスイッチの赤いランプが点灯して、ディスプレイは次のように表示されます。



このキーでこれから録音する曲を選びます。
曲は1番から8番の8曲があります。

録音する曲の選択

録音の前に、「これから何番の曲を録音するのか」を指定します。

録音する曲 [ソング] は「PLAY SONG」の下の方の+、-キーで選択します。

ここではSONG1 (1番の曲) を選択しましょう。

ソング番号とソング名

録音する(した)曲をソング(SONG)と呼びます。EOSは最大で8曲(ソング)まで、録音再生できます。

ひとつひとつのソングには、1から8の番号がついています。また音色と同じように好きな名前をつけることができます。(名前のつけ方は後ほど説明します。67ページ) まだ録音していない曲を選ぶとソングの名前は空白になります。

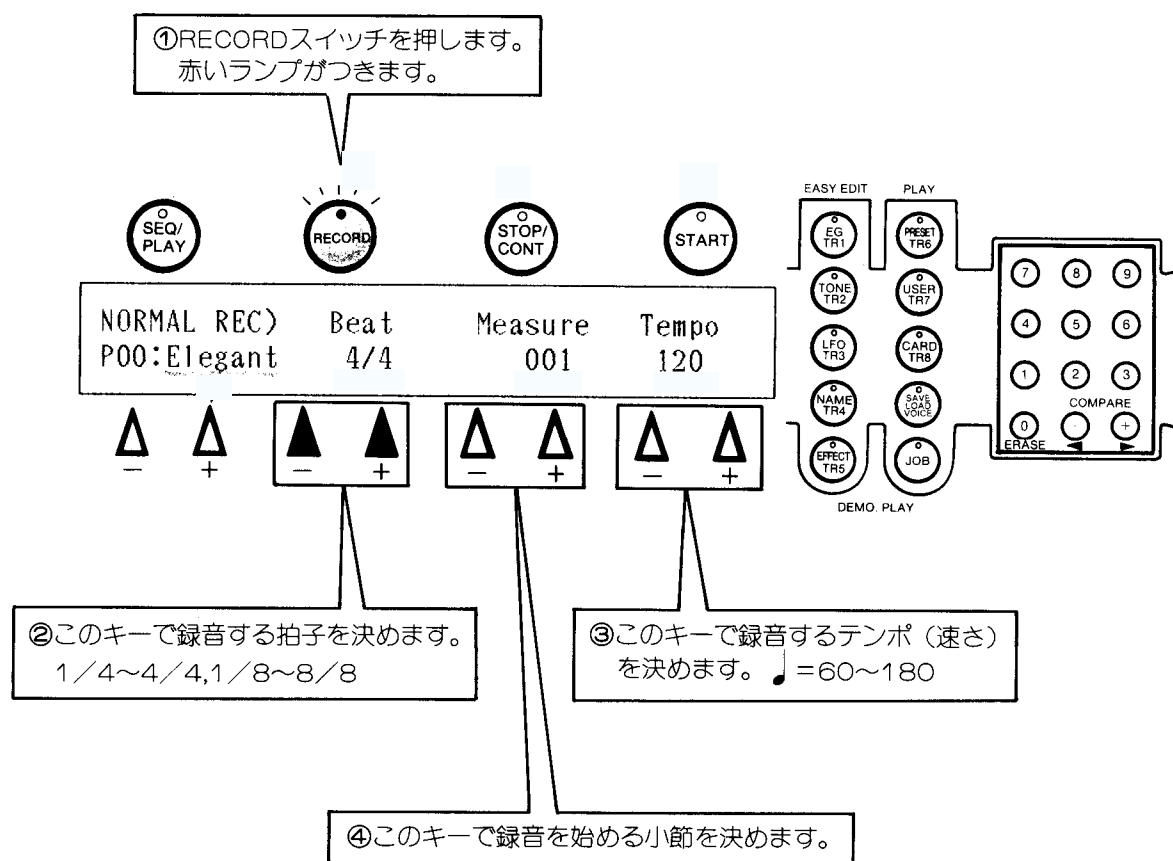
録音条件の確認

これから録音する曲の拍子やテンポ（速さ）、音色などを決めます。

録音待機

録音する曲を選んだらRECORDスイッチを押します。
この画面で拍子やテンポを決めます。この画面の状態を「録音待機状態」といいます。

RECORDスイッチを押します。
RECORDスイッチの赤いランプが点灯して、ディスプレイは次のようにかわります。



注意

ディスプレイ左上に「NORMAL REC」と表示されていることを確認しましょう。

「STEP REC」や「PUNCH REC」と表示されたときには、録音方法が「ステップ録音」や「パンチ録音」になっています。「NORMAL REC」（ノーマル録音）に切り換えてください。（37ページ）

拍子を決める (Beat)

録音する曲の拍子を指定します。

「Beat」の下に+、-キーで変更します。

1/4, 2/4, 3/4, 4/4, 1/8, 2/8, 3/8, 4/8, 5/8, 6/8, 7/8, 8/8, 1/4...の順に変わります。

例えば、ワルツを録音するには、3/4を、普通の曲を録音するときには4/4でよいでしょう。

テンポを決める (Tempo)

録音する曲のテンポ (速さ) を決めます。

「Tempo」の下に+、-キーで、速さを指定してください。

この数字は、「1分間に4分音符が何拍分の速さか」を表しています。

数字が大きいほど速くなります。テンポは♩=60~180の範囲です。

* ここで決めるのは録音するときのテンポです。再生するときのテンポは別に決めます。(26ページ)

* テンポを遅くして録音し、再生するとき速くすることもできます。

注意

メトロノームの音を聴きながらテンポ (速さ) を決めたいときには、STARTスイッチを押してください。メトロノームが鳴りだします。

ただし、このときに鍵盤を弾くと録音されてしまいます。

* メトロノーム音が聞こえないときは、STOPスイッチを押してから鍵盤を弾いてみてください。

音が出ないときには、ボリュームやアンプとの接続を確認してください。

音が出るときには、メトロノームの設定を確認します。(応用編31ページ)

録音開始小節の確認 (Measure)

録音をはじめる小節を決めることもできます。

はじめて録音するときには1小節目から録音しますのでここでは何も指定しません。001のままにしておきます。

既に録音した曲に重ねて録音するときなどに、録音を始める小節を指定します。

注意

曲の途中から録音するときには、録音開始小節を指定した後、STOP/CONTスイッチで録音が始まります。STARTスイッチを押すと1小節目から録音が始まります。

STOP/CONTのCONTとはContinue (コンティニュー) の略で「継続」という意味です。STOP/CONTスイッチを押すと、ここで指定した小節から「継続」して録音します。

音色とトラックを選ぶ

表示された音色

次に録音する音色を決めます。

ディスプレイ左下に音色名が表示されています。

音色名の下に、+、-キーで録音する音色を選ぶことができます。

注意

最初にディスプレイに表示される音色は、選択したソングに登録されている音色です。

選択したソングによっては、和音が出ない、発音数が少ない設定になっていることもあります。「音色の割り振り (パートタイプの選択)」で音色の割り振りを設定してください。

音色の割り振り (パートタイプの選択)

①RECORDスイッチを押します。



RECORDスイッチのランプが緑色に変わり、ディスプレイは次のように変わります

赤いランプから緑のランプに変わります



PART TYPE) Please select part type!
[-] [+]



②PART TYPEの下に+、-キーを押して楽器の編成 (パートタイプ) を選択します。

「1 : Piano solo」を選択します。



PART TYPE) Piano
1:Piano solo 8



このキーでパートタイプを選択します。
パートタイプには1から7の7種類あります。

この表示は、「これから録音するのは、ピアノの音色で同時に8和音まで弾けますよ」という意味です。

ピアノではなく「フルートの音色」で弾いてみたい（録音したい）という人も、ここでは「1 : Piano solo」を選択してください。後ほど音色を選び直します。EOSは同時に8和音まで出せます。パートタイプでは、8和音を何種類の音色に割り振るのかを決めると考えてください。

*パートタイプには7種類あり、「1 : Piano solo」以外を選ぶといくつかの音色を使って別々の演奏・録音ができます。しかしその分、音色ごとに演奏・録音できる発音数（同時に弾ける和音数）が減ってしまいます。
ここでは、「1 : Piano solo」にしておきます。
パートタイプや発音数については後ほど詳しく説明します。（応用編10ページ）

③設定が終わったら、もう一度RECORDスイッチを押します。

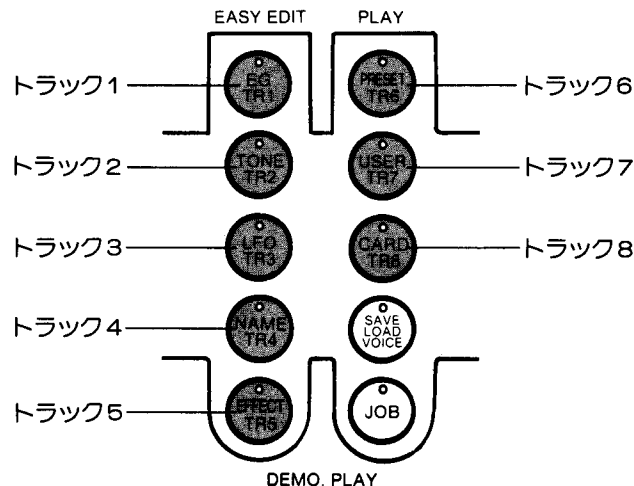
RECORDスイッチのランプが緑から赤に変わり、ディスプレイは録音待機の画面にもどります。

録音トラックの選択

これから録音するトラックを選択します。トラックは1から8までの8つのトラックがあります。

トラックとは演奏を記録する場所のことで、一曲（ひとつのソング）のなかで別々のフレーズ（演奏）を録音することができます。
トラックについてはのちほど詳しく説明します。今は録音場所が8つあるということだけ覚えておいてください。

ディスプレイの右側の「TR1」、「TR2」、と書かれた8つのスイッチがトラックの選択スイッチです。このスイッチを押して録音するトラックを選択します。

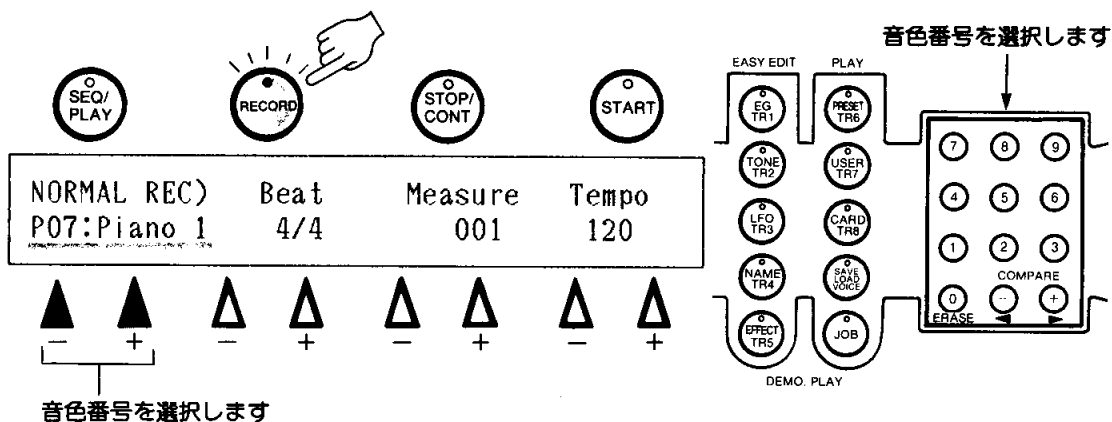


選択したトラックのスイッチは赤いランプが点灯します。
ここでは、トラック1（TR1）を選択します。

*この例ではパートタイプで「ピアノの音色で8和音の録音」と指定しましたので、トラック1以外に録音しても再生できません。
トラック1以外を選択すると「NORMAL REC」の下に「--- : 」と表示されて音は出ません。

音色の選び方

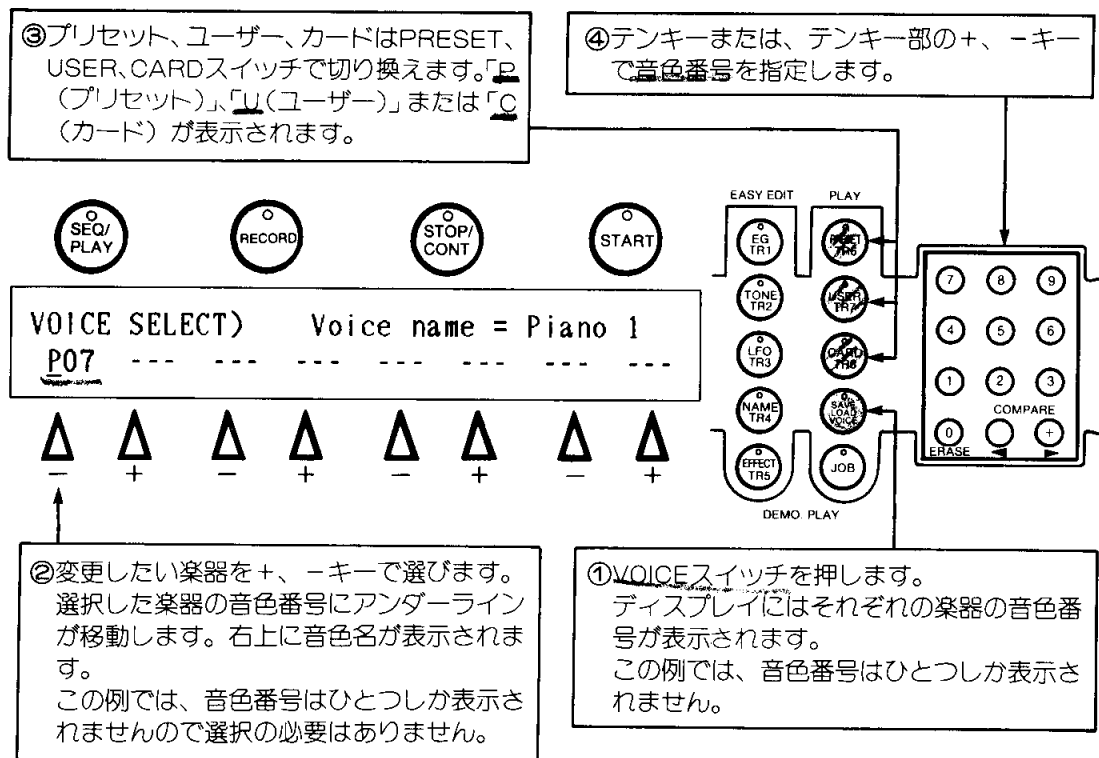
RECORDスイッチを押します。緑のランプから赤のランプに変わります。



音色番号を選択します

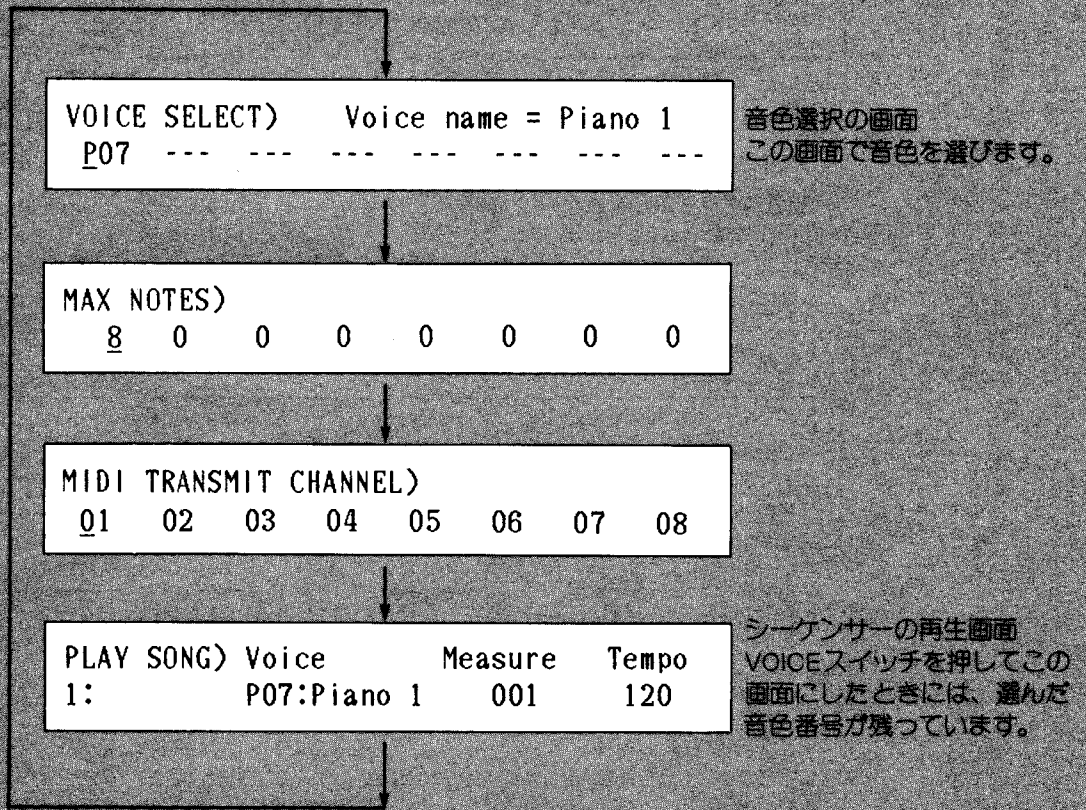
一番左の+、-キーまたはテンキーで音色番号を選択します。

プリセット、ユーザー、カードを切り換えるには、VOICEスイッチを押します。



注意

- ・音色を選んだ後でSEQ/PLAYスイッチを押すと、もともとその曲に登録してある音色にもどってしまいます。何も登録していない曲でも初期値の音色になります。
- ・~~VOICEスイッチを押してシーケンサーの再生画面にもどしてください。~~
- ・VOICEスイッチは押すたびに、4つの画面が切り替わります。



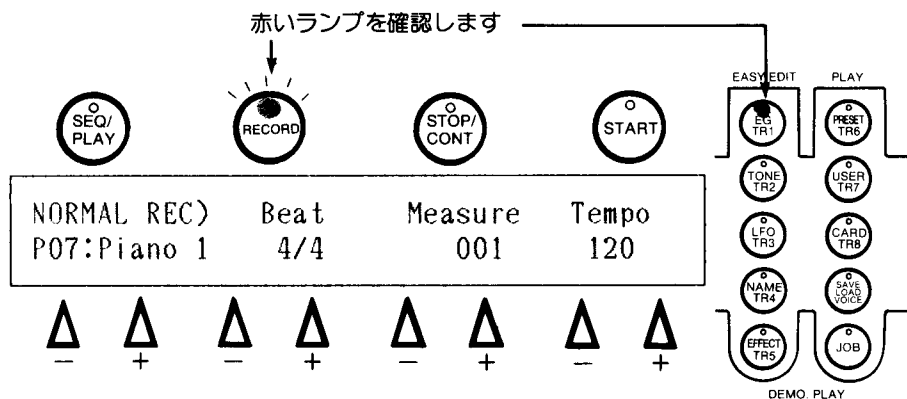
以上で録音前の準備は終了です。さあ、いよいよ録音です。

録音の開始

録音のしかた

①録音待機の画面を確認します。

もし録音待機の画面になっていないときには、RECORDスイッチを押して録音待機の画面を表示させてください。



* RECORDスイッチの赤いランプがついているか確認してください。

緑のランプがついているときは、パートタイプ（音色の割り振り）の状態ですから録音できません。

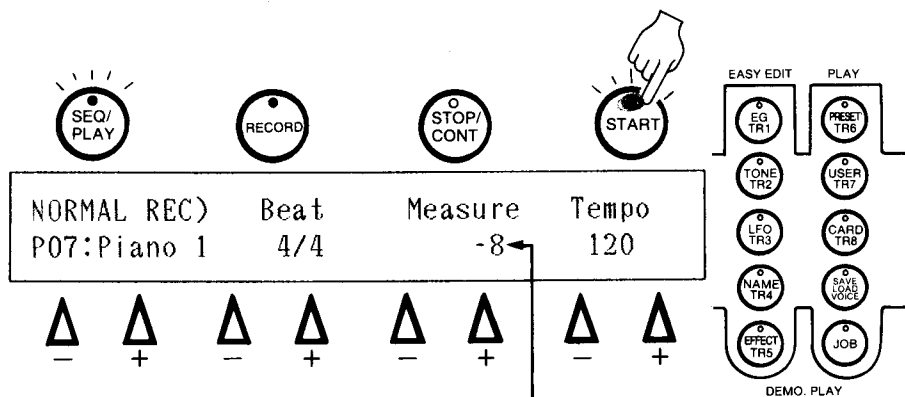
もう一度RECORDスイッチを押してください。

*トラック1「TR1」の赤いランプがついていることも確認してください。

赤いランプがついていないときには、TR1スイッチを押して赤いランプを点灯させてください。

②ディスプレイの上のSTARTスイッチを押します。

STARTスイッチの赤いランプが点灯します。



マイナスカウントが表示されます。
001になったら録音をはじめます。

メトロノームが鳴り始めます。

2小節の待ち時間がありますからこの間に、曲の速さ(テンポ)をつかんでください。

ディスプレイの小節数(Measure)にマイナスカウントが表示されます。

拍子(Beat)が4/4のときは、-8から始まります。この数字が001になったら録音できます。



テンポに合わせて、SEQ/PLAYスイッチのランプが点滅します。

③Measureが001になったら、演奏を始めてください。

あなたの演奏がそのまま録音されます。

鍵盤を弾く強さ(イニシャルタッチ)や押し込む強さ(アフタータッチ)で、音量や音色に変化をつけることができます。

ピッチベンドホイールやモジュレーションホイールを操作すれば、その操作も録音できます。

* 「Measure」には小節数が表示されます。

* 録音中に拍子(Beat)を変えることはできません。

* 録音中にテンポを変えることもできますが、記録されません。

再生のときは、一定のテンポになります。

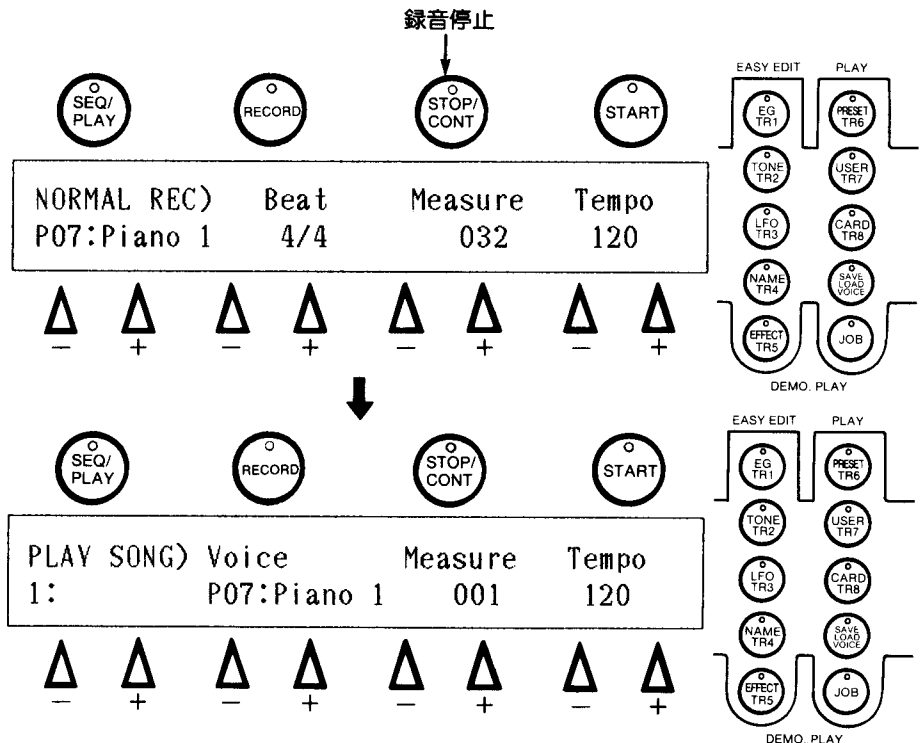
参考

マイナスカウントのときに、音色切り換えやコントローラの情報を録音できます。(応用編42ページ)

録音の停止

演奏が終わったら、STOPスイッチを押します。

その時点で録音は止まり、ディスプレイは再生の画面に変わります。



*EXITスイッチを押しても、録音を停止できます。ただし、シンセサイザー機能に移ってしまいます。

注意

録音中に、録音できる音符数を超えると「Memoryfull」と表示されて、自動的に録音が止まります。録音中に「Memoryfull」の表示が出ると、その演奏は録音されません。

**曲の途中から録音するには
(継続録音)**

曲の途中から録音することもできます。

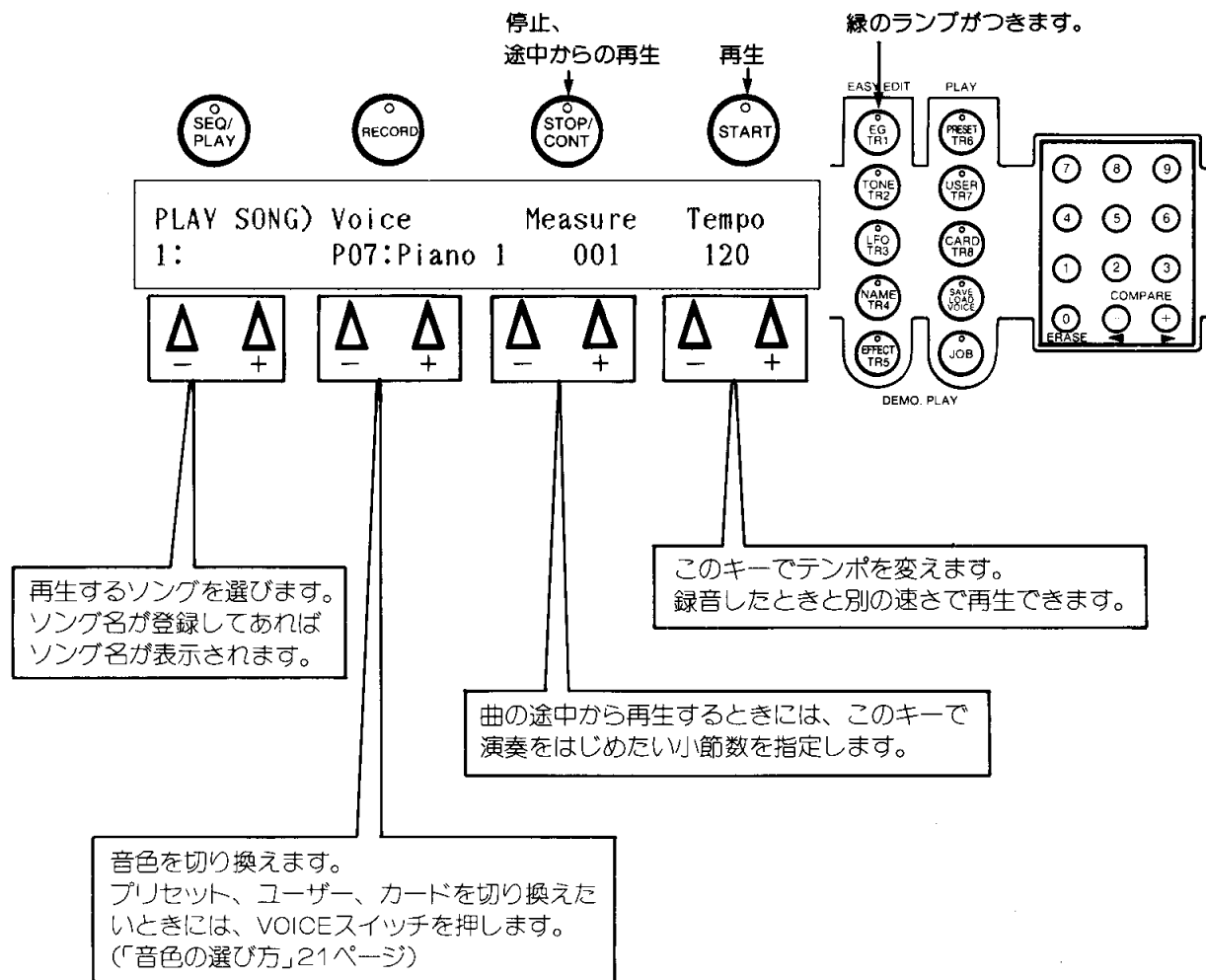
録音待機状態で、録音を始める小節を指定します。(17ページ)

STOP/CONT(ストップ/コンティニュー)スイッチを押すと、指定した小節から録音できます。

再生のしかた

再生の開始

いま録音した曲を聴いてみましょう。
STARTスイッチを押します。いま録音した演奏が再生できます。



トラックの確認

TR1スイッチのランプは赤から緑に変わっています。
緑のランプは「このトラックには演奏データが入っています。」という意味です。
* 緑のランプが点灯している状態でSTARTスイッチを押してください。
点滅しているときは、音は出ません。TR1スイッチを押すと緑の点灯に変わります。
トラックスイッチを押すたびに、点灯と点滅が切り替わります。

再生のテンポ

「Tempo」の下に、+、-キーで再生する速さ（テンポ）を変えることもできます。

音色をかえる

再生時は録音したときの音色に設定されています。

音色を変えたいときには、VOICEの+、-キーまたはテンキーで音色を選びます。プリセット、ユーザー、カードを切り換えるときにはVOICEスイッチを押します。（「音色の選び方」24ページ）

- * 録音や再生のときに選んだ音色は一時的なもので、記憶されません。録音した曲にどの音色を使うかを記憶させたいときには、登録の操作が必要です。（75ページ）
- * 登録の操作を行う前にSEQ/PLAY スイッチを押すと、もともとその曲に登録してある音色にもどります。

*** 再生しながら鍵盤で演奏することもできます。**

ただし、同時に音を出せるのは8和音までです。同じタイミングで8和音を超える場合は、シーケンサーの演奏が優先されます。

再生の停止

- ・ STOP/CONTスイッチを押すと演奏が止まります。
- ・ 曲の途中から再生したいときには、「Measure」の下に+、-キーで演奏をはじめたい小節番号を指定します。
例えば、16小節目からはじめたいときには、016と指定します。
STOP/CONTを押すと、指定した小節から演奏が始まります。

録音の途中でまちがえたら(消去)

いかがですか？うまく演奏録音できましたか？

はじめての録音で緊張して、まちがえてしまったら…。いくつかの方法があります。

(1)もう一度はじめから演奏・録音しなおす

一番原始的な方法ですが、まちがった部分が多いときやノーマル録音で演奏のノリを大切にしたいというときには、欠かせない方法です。

カセットテープに録音するのと同じ感覚です。

(2)まちがった箇所（音符）だけ、音の高さ、長さなどを修正する

「ステップ録音」の応用で、まちがった音だけ、音の高さ、長さなどを指定し直します。シーケンサーならではの編集機能です。

(3)まちがった箇所（小節）だけを演奏・録音しなおす

「パンチ録音」といって、まちがえた小節だけを再録音します。

何小節目から何小節目までと指定して録音し直します。シーケンサーの威力を発揮します。

ここでは、(1)の方法について説明します。

(2)は「録音の途中でまちがえたら」(55ページ)、(3)は「パンチ録音」(応用編 45ページ)をご覧ください。

もう一度録音しなおす

演奏をまちがえてしまったら、もう一度はじめから録音しましょう。

その前に、今の演奏（録音）を消さなければなりません。

というのは、EOSのシーケンサーは「重ね録音方式」なのです。またむずかしい言葉がでてきたな！でも意味は簡単。一度録音した演奏（演奏データ）は、あなたが「消す」操作をしない限り、消えずに残っています。ですから「消す」操作をしないで、もう一度はじめから録音して再生すると、最初の（まちがった）演奏とやり直した演奏の両方が再生されてしまいます。

エーイ、めんどくさい。カセットなら録音しなおせば、前の録音は自動的に消えるのに！

シーケンサーの方が音楽制作に便利だといったのはどこのどいつだ！！

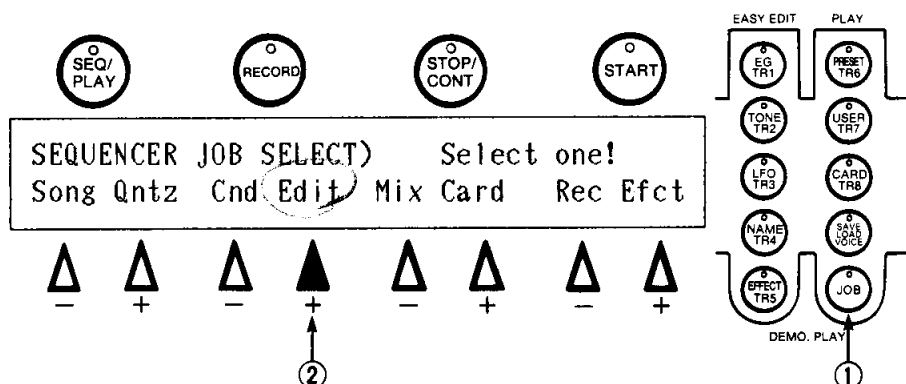
マアマア、そう怒らずに落ち着いて。たしかに「消す」という操作は面倒ですが、この「重ね録音方式」には、便利な点がたくさんあります。例えばピアノの演奏を録音するとして、はじめに左手を録音して、ついで右手の演奏をさつき録音した左手に重ねて録音する。こうすれば両手で演奏するにはむずかしい曲もわりと楽に録音できます。こんなことは普通のカセットじゃできませんね。本当はまだまだ他にも理由がありますが、このへんにして、「消す」操作について説明しましょう。

	テープ	EOSのシーケンサー
最初の録音	A	A
同じ場所に録音	B	B
結果は	B	A + B
	後から録音した音だけ 最初の録音は自動的に消える	最初の録音と後からの録音の両方 次々と音を重ねられる

録音を消す (ERASE)

① JOBスイッチを押します。

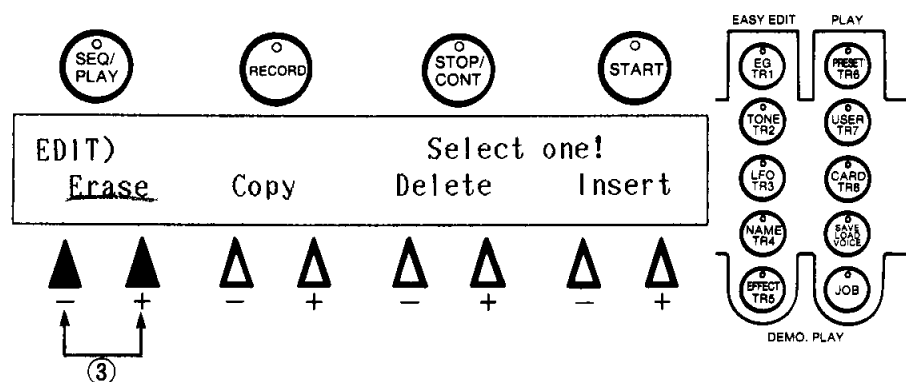
シーケンサーのさまざまな機能のタイトルが表示されます。
この画面をメニュー画面といいます。



* 録音中や再生中にJOBスイッチを押しても反応しません。

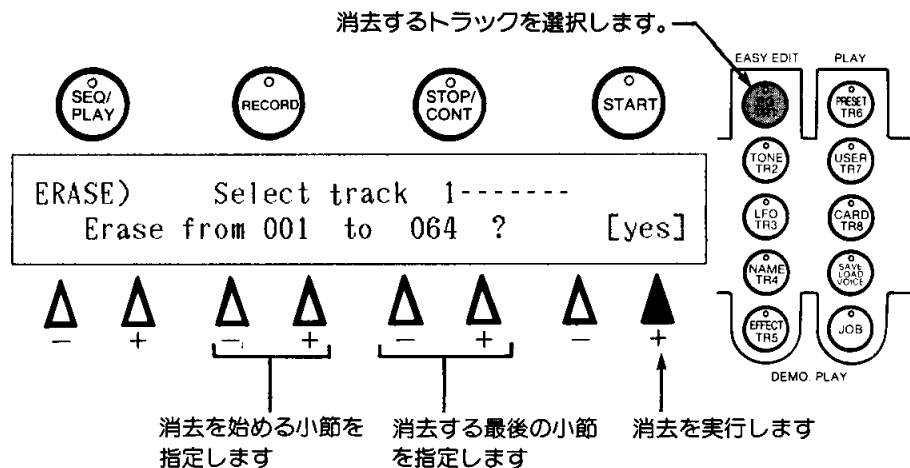
② 「Edit」の下の方の+キーを押します。

「Edit」の中の機能のタイトルが表示されます。
この画面をサブメニュー画面といいます。



③ 「Erase」の下の方の+、-キーを押します。

+、-どちらを押してもかまいません。
Erase (イレース) とは「消去」という意味です。
消去は「どのトラックの何小節目から何小節目までの演奏データを消すか」を指定します。



④ 消去は「どのトラックの何小節目から何小節目までの演奏データを消すか」を指定します。

「from」の下の子、-キーで消去する最初の小節、「to」の下の子、-キーで消去する最後の小節を指定します。

またトラックスイッチで消去するトラックを指定します。

この例では、今の録音を消して録音し直すのでトラックは1、fromは001、toは録音した最後の小節を指定します。

⑤ [yes] キーの下の子+キーを押します。

Sure?と確認のメッセージが表示されます。

今の演奏を消してよいか、確認してください。

* イレース（消去）を中止したいときには、SEQ/PLAYスイッチを押します。

⑥ 「yes」の下の子+キーを押します。

「Executing /」の後「Completed /」が表示されて、いま録音した演奏がすべて消えます。

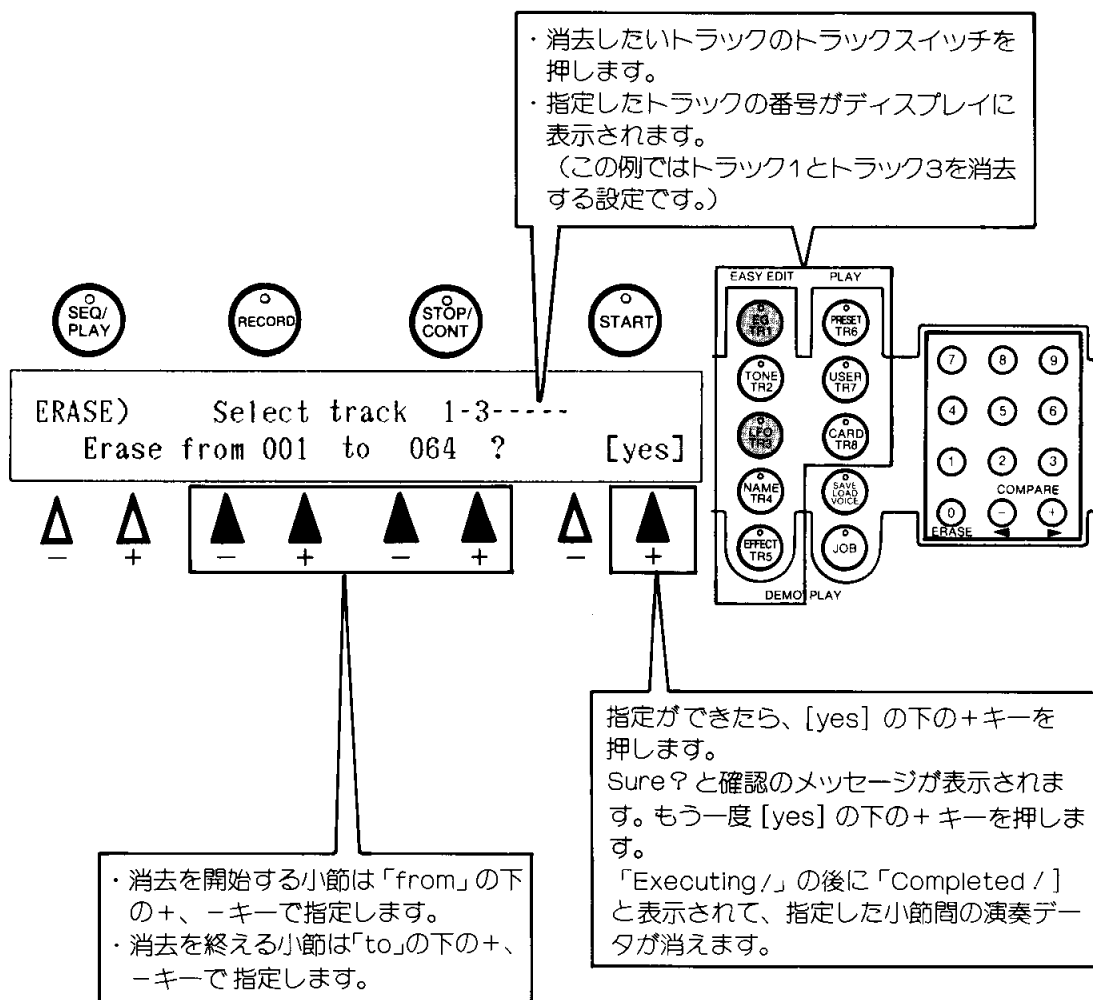
⑦ RECORD、STARTの順にスイッチを押して、もう一度はじめてから録音します。

注意

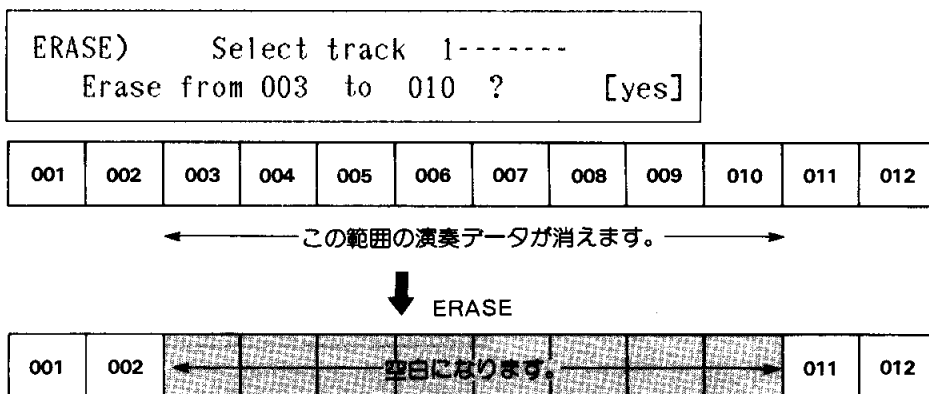
重ね録音をしたときにイレース（消去）を行うと、一番最後に録音した演奏データだけではなく、指定したトラックのすべての演奏データが消えます。

指定したトラックの一部だけを消す

録音した演奏データの一部だけを消去したいときや、特定のトラックの演奏データを消去したいときには、次のように操作します。



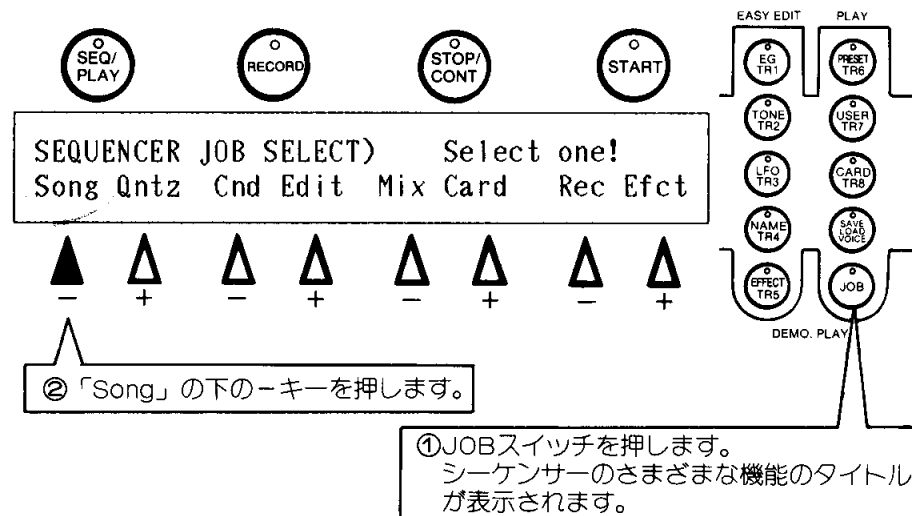
例えば次のように指定するとトラック1の3小節目から10小節目の演奏が消えます。



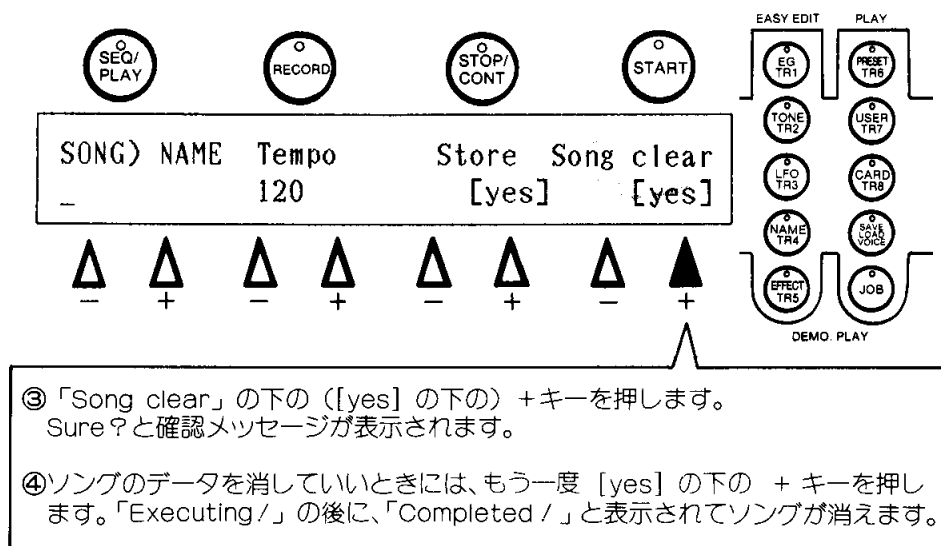
* イレース（消去）は、指定小節目間の演奏データをすべて休符に置き換えると考え
てください。
そのため、演奏データの長さ（小節目数）は変わりません。

1曲まるごと消す (ソングクリア)

1曲分の演奏データ(ソング)をまとめて消します。
8つのソングのうちの現在選ばれているソングを消去します。



* 録音中や再生中にJOBスイッチを押しても反応しません。



- * ソングのクリアを行うと、そのソングの8つのトラックのすべてのデータが消えます。
- * ソングのクリアを中止したいときには、SEQ/PLAYスイッチを押してください。
- * この例のようにひとつのトラックしか録音していないときには、イレース、ソングクリアのどちらを行っても構いません。

注意

- ・ソングのクリアを行うとソングネームと演奏データだけが消えます。音色番号や発音数、テンポ、エフェクトの設定などはそのまま残ります。

この章のまとめ

- ・「ノーマル録音」は鍵盤での演奏をそのまま録音する方法です。
- ・ノーマル録音は次の手順で行ないます。(16ページ)
 - ① SEQ/PLAYスイッチを押します。
 - ② 録音する曲を選択します。
 - ③ RECORDスイッチを押します。
 - ④ 拍子、テンポ、録音開始小節を指定します。
 - ⑤ 録音するトラックを選びます。
 - ⑥ 録音する音色を選びます。
 - ⑦ STARTスイッチを押すと録音がはじまります。
 - ⑧ 2小節のマイナスカウントを待って演奏を始めます。
 - ⑨ STOPスイッチで録音が終了します。
 - ⑩ STARTスイッチで再生できます。
- ・楽器の編成はパートタイプで選択します。(19ページ)
 - ① RECORDスイッチを2回押します。
 - ② 緑のランプを確認します。
 - ③ パートタイプを選択します。
 - ④ RECORDスイッチを押します。
- ・演奏をまちがえたら、いまの録音を消してもう一度録音し直します。(28ページ)
 - ① JOBスイッチを押します。
 - ② 「Edit」を選択します。
 - ③ 「Erase」を選択して、[yes] を指定して演奏データを消去します。
- ・EOSのシーケンサーは「重ね録音方式」で、消さない限り以前の演奏データは残ります。

シーケンサーでどんな楽しみ方があるか。

シーケンサーを使うとどんな楽しみがあるのか、簡単にご紹介しましょう。

●ピアノの練習

ピアノの練習に利用しましょう。

初めての曲を練習するとき、両手を同時に弾くのはなかなかむずかしいですね。

そこでシーケンサーの登場。まずはじめにピアノの「右手」の部分（メロディー）を録音します。「右手のメロディー」をシーケンサーで再生（自動演奏）させながら、左手の練習。

今度は反対に「左手」の部分（伴奏）を録音。伴奏をシーケンサーにまかせて、右手の練習。そして最後にシーケンサーを止めて両手で演奏。これで出来上がり。

なに？いきなり演奏して録音なんかできないって？ そんなときは、あとでお話する「ステップ録音」。楽譜を書き写すように、1音1音ゆつくりと録音していきます。

ですから、知らない曲でも大丈夫。

●伴奏はシーケンサーにおまかせ

バンドのキーボードを担当しているあなた。バンドの連中とみんなで練習するときには、ベースやギターがバックアップしてくれるから、ソロを弾くとカッコイイ。でも家で練習するときには、バックアップがないから今一つのりきれない。

そんなときは、ベースやギターのパートをシーケンサーに任せて、自分のパートを練習しましょう。

ギターを弾く人なら、ピアノやベースの音色で伴奏を録音しておいて、それに合わせてギターを弾いてもOK。

●最新のヒット曲やお気に入りのアーティストの曲を録音しよう。

市販の楽譜（バンドスコア譜が最適）をパート別に録音してみましょう。プレイバック（再生）して楽しんだり、一緒に弾いてみたり。

音色を変えてみたり、フレーズを変えてみたり…アレンジの勉強にもなります。

●作曲メモ

ふと思いついたフレーズを忘れないうちにシーケンサーに録音してしまいましょう。細かいことは抜きのしとてあえず作曲メモ。いくつかのフレーズがたまったら全体の構成や音色を考えてオリジナル曲にしましょう。

シーケンサーなら、コピー（複写）や削除、挿入が自由だから、いくつかのフレーズを並べ変えて作曲できます。

●オリジナル曲を録音しよう

オリジナル曲ができたなら、伴奏、メロディ、オブリガートなどもつけて完成させましょう。音色を選んだり、アンサンブルを考えたり…作曲家、編曲家、レコーディングディレクター、そしてプレーヤー、ひとり何役もこなします。バンドをやっている人ならメンバーに聴かせて、バンド用アレンジの参考にしましょう。

●強力なバックアップメンバー

むずかしい演奏はもうシーケンサーにまかせてしまいましょう。

●ワンマンバンド

バンドをやりたいけどメンバーが集まらない人、メンバーと意見が合わない人。

メンバーがいなくても一人だって音楽はできる。

EOSのシーケンサーなら何回同じところを演奏させようと文句もいわなきゃ、テンポも狂わない。

その気になれば、オーケストラだって可能なんだ。

この他にも、いろいろな使い方が考えられます。みなさんで工夫して楽しみを広げてください。